



湧き水の池 「見次公園池」が空っぽ

見次公園の池のまわりが鉄板で囲まれ、大がかりな浚渫（泥さらえ）工事が進められています。池の中は公園の北側(高速の反対側)の道や坂道からよく見えます。空っぽの池底と大きな浚渫機械などが見え、掃除機のように真空ポンプでヘド口を吸い込み、いったん貯留し、搬出する作業の様子がわかります。泥さらえは昭和52年以来だそうです。

コイ、ヘラブナ、ナマズなど池にいた魚約1000匹は、水抜き前に救出し志村2中のプールで保護されています。瀬田さんはカモたちの安否を心配していました。来る人たちに餌をたっぷりもらい、安楽な暮らしをしていたカモ達も突然の立ち退きに驚いたことでしょう。しかし、もともと人間に依存しない野生生物、彼らは新しいすみかを見つける能力をもっているはずです。



池底にたまったヘドロ

この池は毎年水温が上がる季節になると、ペンキを流したようなあざやかな緑色のアオコ(植物性プランクトン)が大量に発生し、臭いがし、時には死んだ魚がお腹を見せて浮いていて、池の水が腐っているのがわかりました。

池底には魚の糞、ヘラブナ釣りで撒く練り餌(ジャガイモなどが原料)、カモにやるパン、餌にカモが集まるとその糞も増える、という具合にアオコの栄養がたっぷり沈殿し、大量に発生したアオコもヘドロとなって沈殿する、という悪循環を繰り返します。見次公園池の面積は7000m²、広い池です。工事の看板によると、取り除く泥(ヘドロ)の量は3400m³、雨と一緒に周囲から流れ込んだ泥も多いと思われます。

冬の浚渫工事なので悪臭は感じられません。それにしても大がかりな工事で経費もかなりと思われれます。せっかくヘドロを掻きだしたのに、また練り餌やパンなどを投げ込まれば血税が無駄になってしまいます。これまでと違った見次公園池として再生してほしいと思います。

見次公園の湧き水

見次公園の池は湧き水です。工事中の池底から湧いているようには見えませんが、崖下からの湧き水が空っぽの池に流入しているのがわかります。デッキの下や崖下からにじみ出る水も見られます。



左上：湧きの流れ、右上：崖下の浸み出し
左下：デッキ下も湧き水で濡れている



見次公園の近くで育った横山れい子さんによると、昭和30年当時も、周囲はトッパンなどの工場があり、高速道路はなくて、出井川が流れていました。出井川は工場排水などで汚れ、黄色や黒っぽい色で、臭いも卵の腐ったようなそれは汚い川でした。が、見次公園の池は自然の池で、今と同じ階段下の流れから大量の湧き水が出ていて、横山さんはここでよ

く遊んだそうです。

今も、湧水の流れ（ショウブが生えている近く）の源から湧いている水が最も多いようです。平常時は同じ湧き口から浄化用の井戸水と一緒に流していきまわらわしいのですが、工事中は井戸水を止めているので湧水だけが流れています。この流れの湧水量は、「板橋区自然環境実態調査〈水系調査〉」（平成19年3月）によると1分間に24.8ℓ～30.5ℓ（1日にすると35トン～44トン）、水道の蛇口（1分間に12ℓ）二つ以上を全開にした位の水量が一日中出ていることとなります。

石神井川の源流にある三宝寺池やその上流の富士見池なども自然の池に見えますが、二つとも湧き水は枯れ、地下水を汲み上げて維持しています。東京では本当の湧き水の池は少ないのです。見次公園も湧き水の池とは言え、周辺はコンクリートの建物に囲まれて湧水量も減少、さらに地下水汚染の問題もあり、湧水保全の道も厳しいところがあります。

見次公園池の水質浄化の筋道は？

空っぽの池の中に丸い円盤のようなものが見えます。満水の時、噴水のように水を吹き上げていましたが、池の水をかき混ぜて（酸素を入れて）、汚濁物質の分解を促進させる浄化施設です。また数年前に井戸を掘り、浄化（希釈）用水として井戸水を汲み入れています。さらに所々にヨシ等を植栽した浮島もあります。これも池の水際に生えているヨシなどの植物が汚濁物質を栄養源として吸収することを利用した浄化対策で、見次公園では自然の水際がないので植物を植えた浮島で代替しているのでしょう。いずれも汚れの量が多いので、効果を発揮できなかったようです。

水をきれいにするには、当たり前のことですが「汚れのもとを入れない」のが原則です。「川の水をきれいにするために」という水質浄化のパンフレットなどには、こんなことが書かれています。

米のとぎ汁（2ℓ）を魚がすめる水質まで薄めるためには、お風呂4杯以上の水が必要、おでんの汁500ccならばお風呂2.5杯分の水が必要、しょうゆ15cc（大さじ1）ならばお風呂1.5杯分の水が必要等々。

家庭排水が直接川に流れることはなくなりましたが、池は自然のもの、一方で汚れをばらまきながら、浄化するなんてことは、「科学的」ではありませんね。

昨年9月、会が開いた講演会「東京の地下水・湧き水・川」で、講師の芝浦工業大学教授守田優先生は、湧き水は都市の自然の健全さの証明だと話されました。まちなかで少なくなった身近な自然に対して、私達は利用価値だけに目を向けがちですが、自然は次の世代に引き継いでいくべき財産です。とすれば、長期計画（大げさに言えば「100年の計」）も必要です。池水を浄化するために、また湧き水を増やすために、区民がアイデアを出し合ったり、少しがまんしたり、私達は何かができるか考えたりして、見次公園の再生がスタートすればいいなあと思います。

（坂本 郁子）

稲作についての思い

昨年石油高騰ともなって大豆や玉蜀黍からアルコール燃料造り出したため、輸入穀物が急騰した。食料の60%も輸入に頼っている日本では、これまでの農業に対する方策を見直す必要がある。世界的な100年に一度あるかないかの大不況にさらされている現在、稲作に力を入れられる好機でもあると言えそうだ。

稲作は単に米を生産するだけで無く、豪雨時の緩衝池となって下流の洪水を防止し、貯水池として流域の生活や工業用の水確保などとしても働くので、田んぼを維持することは国の治水上にも非常に重要なものである。

副産物の藁は、かつては牛馬の飼料や敷き藁とし、排出された敷き藁は堆肥にし、藁を直接畑のマルチング材にしたり、燃料としても使われた。俵・苧や縄として農産物の容器などとして、各種産業資材となり、畳の芯にも藁が使われた。又、あるときはワラバンシなる紙の原料にも使われた。藁を編んで作った米俵のほかにも、入れ物としては苧を2つ折りにして両脇を縫い合わせたカマスがあり、農漁村だけで無く工場でも使われていたようだ。

関東では晩秋になると、農家の裏には脱穀後の藁を立ち木の周りに高くまで括りつけた藁塚？がたくさん作られて、順次下から抜き取って使っていたのを思い出す。

お椀を大きくしたような藁の入れ物があり、農家では収穫物や肥料などの運搬用に使い、また、畑のそばで乳児を入れて休ませたり、大小2つ組み合わせてお櫃入りご飯の保温に使ったりしたツグラ（またはイグラ）もあった。履物にも草鞋を始めとし、草履や雪国の雪靴があり、藁の使途も多様であった。最近ではペットの寝床などの製品や、樹木の胴に巻きつけて害虫を集める菰が、冬の風物詩として見られる藁であろうか。

籾殻も専用の竈で炊事の燃料になった時代があり、焼いた薫炭は多孔質で壊れにくいので有用な土壌改良材であり、現在でも園芸用資材になっている。

棚田は近くでは長野県や千葉県にあり、観光スポットとしても有名だが高齢化で維持が困難になり、オーナー制をとり始めているようだ。

板橋区にも広い田んぼがあったが、今は水車公園、郷土資料館の庭と学校などに小さなものが残るだけとなった。

稲作は民を挙げての仕事のため、豊作を祈願し稔りを感謝するような伝統行事がある。思いつくまま並べると、豊作や子孫繁栄を祈る板橋区内の田遊び（2/11 他）、田植え終業時に戸別での早苗振り、収穫時の皇室行事でもある神嘗祭（10/17）と新嘗祭（11/23）、子供の行事で十日夜（ト



稲の花（8/29撮影）

ウカンヤ 10/10) などがある。



刈入れ後の稲穂



サンダワラ

私は何年か前から庭でポットに植え、園芸の一環として育てて稲を觀賞している。苗は自分で前年のモミからの場合もあったが、最近では手抜きをして郷土資料館や水車公園から余っている苗を頂いている。去年は6月1日に水車公園から苗(もち米の由)を10本ほど頂いた。狭い庭で日照時間が短いために田んぼで作った稲のように育たぬが、何とか秋に稔りを迎えられた。収穫までにスズメに食われたりするが、何年分も稲穂の状態でも保管し、結局は野鳥の餌となるのが多いが、たまに爆ぜらせて食したりもしている。イザという時には一食くらいの足しにもなると思ったりしている。

去年は戯れに一握りの藁でサンダワラを作って遊んでみた。サンダワラ(棧俵の意味か)は米俵の両側を塞ぐのに使う円形の製品であり、地方によってはお盆の流し雛やお供物の敷物などにも使われていたようだ。最近では屋内の装飾材料としても使われることがあるようだ。来年は注連飾りを自分で作ってみようか。

以上、正月に頭をよぎった食料がらみの雑念の一端を綴ってみた。(猪鼻昭二)

報告「アメリカザリガニはすごい」について

昨年秋のことです。いたばし水と緑の会のホームページを見た宮城教育大学の学生さんからこんなメールがきました。「いたばし水と緑の会のホームページに掲載されている「アメリカザリガニはすごい」という項目のザリガニが水生植物を食べつくす画像を使用させていただきたい」という依頼です。

仙台市の八木山動物園で環境教育として外来種をテーマとした小学生向けのイベントのなかで、日本にいる外来種の代表としてアメリカザリガニを展示し、外来種がおよぼす在来生物への影響などを紙芝居などで小学生に学んでもらおう、というもので、ホームページにでている画像

は、ザリガニによる食害や、食欲のすごさを分かってもらえる良い例となると思う、とありました。

ホームページには会報の記事やバックナンバーを掲載していて、この記事は会報みずみどり200号(2000年9月号)で掲載し、筆者は佐藤修さんです。さっそく佐藤さんの了解を得て、承諾しました。

遠く仙台の人が当会のホームページを見て下さったのかと思うと、情報の力はすごいな、と思います。記事が出た2000年頃は、会員の中でも水草の消失とザリガニは無関係だと思っている人も多かったのですが、その後、ザリガニを放されたミニトンボ池の水草が、あれよ、あれよという間に食い尽くされたのを見て納得しました。最近では外来生物や放流生物の問題が理解されてきたのはうれしいことです。ザリガニがいなかったら、きっといいビオトープになっていただろうなあと思います。そこでその迫力のある写真のところだけを以下に再度紹介します。

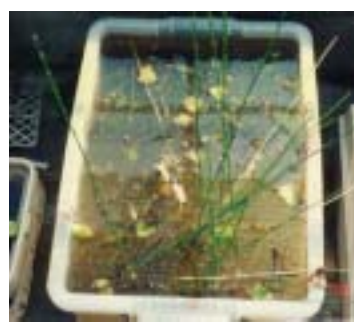
「水生植物に対する彼らの凄い食欲を紹介しよう。写真のようにトチカガミ(この水生植物もかつては荒川下流域に分布していたようだが近頃全くみかけない)が繁茂しているコンテナに体長4cm以下のザリガニ40個体を入れたところ3日後には食害が目立ち始め、2週間後にはほとんど食べ尽くされてしまった。如何に凄い食欲かわかりいただけと思う。」



試験開始



3日後



2週間後

赤塚トンボ池のコイには困った



赤塚トンボ池では今、巨大なコイが5匹も泳いでいます。ため池で釣り上げたコイをトンボ池にもってきて捨てるらしいのです。

昨年5月に池の生物調査をしたときには、いなかったもので、5月以降、8月にフェンスができる前の数ヶ月の間に投げ込まれたらしい。

昨年はカエルの産卵行動は見られたが、卵はほとんど持ち去られた。フェンスが出来て人が入れない池にな

り、投げ込みや持ち去りは無いと思われるが、今いる5匹をどうやって捕獲するか頭が痛い。

観察・管理記録(2008年11～12月)

11月15日(土) 赤塚ため池公園と城址地区のクリーンアップ

林の際は飲み物その他のゴミが、広場では花火のゴミが、林内ではカブトムシなどを捕りに入った人が放置したトラップや缶が目立った。トラック駐車場の裏はゴミワースト1のスポットで、以前運送会社に事情を話し協力を求めたため少し改善されたが、生ゴミと小便臭で気持ちが悪いところである。今回もこのゴミ拾いはパスしたため、作業は早めに終了、ゴミの回収量もまあまあだった。余った時間でバッタ広場のカマキリの卵の観察。卵の形から判断して、バッタ広場ではオオカマキリとハバビロカマキリが多く、夏秋のカマキリの目撃頻度と同じだった。私達がせっせと刈っては積んでおいた草や木の山がもうぺっちゃんこになっていた。自然物が土に帰るのは早い。



オオカマキリの卵



ハバビロカマキリの卵

11月22日(土) バッタ広場作業

バッタ広場柵用の竹を切る。セイタカアワダチソウを抜き、木を切る。

12月13日(土) バッタ広場作業

赤塚公園サービスセンターの指示に従い柵をつくる。購入した丸太杭に11月に切って準備した竹に沿わせてシュロ縄で縛る。竹が曲がっているのでむずかしい。シュロ縄の結びがうまくいかず、ほとんど猪鼻さんが締め直した。イボ結びの練習をしておのぞんだけれど成果はいまひとつ。



活動のお知らせ

運営委員会は毎月第1金曜日です。どなたでも参加できます。

2月運営委員会： 2月 13日(金) 18:30~20:30

3月運営委員会： 3月 6日(金) 18:30~20:30

場所はいずれもエコポリスセンター環境学習室

会報の印刷・発送は奇数月。お手伝いできる方はよろしく

日時：3月18日(木) 18:30~ 場所：エコポリスセンター

変更する場合もあるので、事務局にお問い合わせ下さい。

活動の問い合わせは事務局瀬田まで(3969-7124)

会では赤塚城址周辺で、私たちが作ったビオトープを中心に自然の変化を観察したり、ゴミ拾いや、ビオトープの環境整備を行っています。観察会は原則として雨天も実施します。

1月24日(土) 10:00~12:00

バッタ広場のササ抜きと木を切ります。

集合場所：赤塚トンボ池(板橋美術館そば) 持ってくるもの：軍手

2月21日(土) 10:00~12:00

梅まつり準備

集合場所：赤塚トンボ池(板橋美術館そば)

2月28日(土) 10:00~12:00

バッタ広場のササ抜きと木を切ります。

集合場所：赤塚トンボ池(板橋美術館そば)

環境なんでも見本市(「身近な自然ネット」のコーナーで展示します)

2月7日(土)、8日(日) 10:00~16:00

場所：エコポリスセンター

梅まつり

詳細は未定ですが、会として今年も梅まつりに参加し、身近な自然の紹介と子ども達のノコギリ体験コーナーを設けます。ぜひ応援をお願いします。連絡は瀬田まで。

日時：3月7日(土)、8日(日) コーナーの出展時間は11:00~15:00。

集合時間：7日は9時30分、8日は10時30分 集合場所：赤塚トンボ池

あなたも会員になってください(年会費2000円：振込先は表紙に記載)

いたばし水と緑の会の活動はすべて会員の会費によってまかなわれています。主な用途は、会報郵送料、印刷費、ビオトープ池維持管理のための資材費、コピー代などです。